

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100052		
法人名	社会福祉法人 麗沢会		
事業所名	グループホーム 花の里かるまい		
所在地	〒028-6302 事業所住所 岩手県九戸郡軽米町大字軽米22-42		
自己評価作成日	令和3年9月8日	評価結果市町村受理日	令和3年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中心街から離れた郊外の高台にあり、老健施設と隣接、小規模多機能ホームと併設している事業所です。事業所の周りには東屋から見渡せる広い庭があり、桜、芝桜、ツツジ、紫陽花、紅葉を楽しめます。新型コロナウイルス感染症の影響で町の行事はほとんど中止となり外出の機会が減りましたが、職員が工夫し様々な屋内行事を企画しています。職員は有資格者が多く、定期的な研修により知識・技術の向上に努め、利用者様が安心・安全な生活を送れるように努めています。災害時には各事業所が連携を図り、自家発電機、非常食を共有できる体制を確保している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に小規模多機能ホームが併設され、当事業所とは廊下で繋がりがり利用者の交流が頻繁に行われているほか、隣接地には同じ法人が経営する老健施設があり、各種行事や災害対応などは三事業所が共同で行ったり連携して対応し、当事業所の運営や利用者へのサービス提供に効果を挙げている。事業所には介護福祉士の有資格者が多く在籍し、専門知識と技術に基づく介護サービスを提供している。また、利用者に対する定期的なアンケートの実施により、利用者の思いや要望などを積極的に把握して、利用者が満足して生活できるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念についての研修を行っている。理念の中の「共に笑い」という部分を取り上げ、利用者・職員・家族と共に笑うためにそれぞれ何を行うか考え、重点的に取り組んでいる。玄関前や共有スペースに、理念を掲示し、日々意識できるようにしている。	開設当初に職員間で話し合って作成した理念であり、その中から毎年、大切な言葉を取り上げて話し合う機会を持っている。今年は「共に笑い」をテーマとして研修を行い、どのように実践していくかを話し合い、利用者や家族、職員に笑顔が絶えないよう、日々の取り組みに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行により、地域行事への参加等はなく日常的な交流の機会が持てない状況であった。町内の床屋さんで来所されての散髪や、地域のスーパーからの買い物代行や食材購入にてつながりをもっている。	コロナ禍のため、以前のような地域との交流ができなくなっているが、地域との繋がりを保つていくため、職員が利用者の買物代行で地域の商店を利用したり、町の認知症カフェに職員を派遣している。また、8月からは、隣接の老健施設と共同で「健康だより」を作成し、町内会の回覧板で認知症や栄養などについて情報提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症カフェ「かだある茶屋」へ職員が参加し、開催のお手伝いをしたり、認知症キャラバンメイトとして認知症講座などに参加している。老健と共同で町内会の回覧板を利用し、情報提供をしている。(8月開始で8月は健康だより 栄養編)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。取り組みは前向きであり、向上心もあり、地域での存在感が増してきているとの評価を受けている。新型コロナウイルス感染症の影響で、書面での報告や時短開催となっており、十分な意見を聞けない状況である。	コロナ禍のため、今年度は4月と6月は開催できたが8月は中止となり、資料提供に止まっている。委員として、元職員や町内会長、民生委員の地域関係者が参加するほか、家族代表が参加する場合もある。服薬に係る誤薬対策で意見をいただいたり、避難訓練の様子を見てもらったりしている。	今後においても会議の集合開催が難しい場合があると思われるが、その際には書面開催の方法として、資料提供に止まらず、意見や質問を郵送で受け付けるような工夫により開催されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やケア会議、認知症カフェ、キャラバンメイト活動時は町の職員が参加しており、情報交換をしている。町より利用者紹介を受けることも増えている。介護保険制度の疑問点などは広域や町へ照会し、指導や助言を受けている。	町が主催する毎月の地域ケア会議や認知症カフェ、キャラバンメイト会議等には、事業所からも職員が参加し、町の担当課と連携を図っている。また、二戸地区広域行政事務組合の介護保険担当者とも常に情報交換を行っている。生活保護受給者については、県の担当ケースワーカーの訪問があり、連携が保たれている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は行っていない。外に行きたいと訴えがある場合は、できるだけ付き添い同行し、外を見たり散歩している。身体拘束に関する事案はない。身体拘束廃止委員会によるアンケートや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、職員間で不適切な声掛けを考え、言葉の言い替えについての検討、研修を行った。	身体拘束廃止委員会を設置し、年2回の職員研修や職員アンケートを行うほか、身体拘束に係る新聞記事を回覧するなどして啓発を図っている。利用者への言葉遣いについては、スピーチロックを避け、利用者に誤解を与えないような丁寧な言い方を職員間で話し合い、改善に繋げている。転倒防止等のための赤外線センサーは、家族の了解を得て4人に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、研修を行い意識付けをすることにより、虐待防止に努めている。「接遇」についての研修も行き、虐待へつながらないような関係作りにもつとめている。新聞等に掲載された情報を回覧、職員会議にて伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を中心に、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、料金、サービス内容についての説明は丁寧に行っている。不安や疑問はいつでも話して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族来所時、サービス計画書変更時や電話時に、意見や要望を伺うようにしている。利用者の方からは、普段の会話の中での意見や要望の吸い上げを行っている。出された意見・要望・苦情については検討を行い、対応策を回覧、玄関に掲示している。	利用者の意向は、普段の会話の中から汲み取るようにしているほか、アンケートに代えて、年に1度は職員が意識的に利用者からやりたいことや職員の態度や言葉遣いなどについて聴き取り、取りまとめてケアに生かしている。家族からは、外来受診で来訪した際に意見等を伺っており、内容は、評価されたことも含めて職員に周知するとともに玄関にも掲示している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、併せて業務改善会議を開催し、業務上問題となっていること、設備に関する事などを出し合って話し合い、対応を検討している。一例として、感染症対策の為、委員会を中心に提案が出され、消毒液の設置の場所を増やし、こまめに手指消毒や物品の消毒が出来るように整備をした。検温についても体温計の数を増やし、感染症対策に努めている。	毎月の職員会議に併せて業務改善会議を開催し、運営についての職員意見の把握に努めている。コロナ禍の感染症対策については、消毒液の設置個所の増加や消毒液を職員が携帯することなどが提案され、改善が図られている。また、転倒防止のためのセンサーを増やすよう提案があり具体化している。職員との個人面談は年度内の実施を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議などを通じ、職場環境の整備を図っている。勤務状況等に関しては、個々の諸事情を考慮し出来る限り柔軟に対応している。資格に応じた手当の支給をしている。手当の改定の際は、都度職員へ説明し内容の回覧を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症流行のため、外部研修に参加する機会も減っている。可能な限り、派遣できるようにしている。事業所内での研修は、各委員会を中心にそれぞれ定期的に行っている。他に、介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定を行っており、職員は数名認定を受けている。モチベーションの維持につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に所属している。対面での研修などは中止となっているため交流は出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に困っている事などを十分に確認し、支援へつなげるようにしている。表情や言葉遣いに注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受け止め不安や要望、困っている事など十分に聞き取り、安心して利用して頂けるようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族が何に困っているのか聴くようにしている。入居困難な場合は、他のサービスなどへ助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方とともに、生活をしているという認識である。状態を考慮したうえで、家事や掃除などできる事を行って頂いている。役割をもってもらえるように取り組んでいる。また、お礼を言い、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回の家族通信にて生活の様子や健康状態についての報告を行っている。感染症流行に伴う面会規制あり、なかなか家族との交流が難しい。ご本人とも電話にて会話ができるよう配慮している。窓越しでの面会も行っている。また、リモートでの面会ができるよう、整備し案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は難しい状況であるが、併設の小規模多機能ホームを利用している知人の利用者に会いに行き、会話や交流されることあり。なじみの床屋さんに会ったり、家族との電話にてつながりをもっている。家族や親せきの方より、宅配便で贈り物が届く利用者もある。	コロナ禍の影響を受け、馴染みの知人等の来訪がなくなり外出機会も大きく減少しているが、併設の小規模多機能ホームに通う知人と会うことを楽しみにする方もいる。また、月に4回来所する理容師さんが新たな馴染みとなっている。病院受診の際に同行する家族が多く、貴重な面会と外出の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様と会話をし話の聞き役になって下さったり、食事後のお膳を片付けて下さったりする方もおり、協力されている場面も見受けられる。利用者間の交流が図れるよう、職員が間に入り会話の橋渡しを行っている。利用者間の関係により、座席の配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か困り事がある場合は、相談にのる旨をお話している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの会話の中から、できる事ややりたい事を聞き取るようにしている。1対1での関わりの際は、思いを話してもらいやすい為、時間を多く持つようにしている。また、表情や行動を観察し、思いを汲み取れるようにしている。ケース記録等で職員間で情報の共有を図っている。	大半の利用者が思いや意向を言葉で伝えてくれるが、言葉で表せない場合は、表情や仕草から職員が読み取っている。年1回は利用者アンケートを行い思いや意向の把握に努めている。利用者は食べ物等の希望が多く、「好きなものシート」に記入して情報共有し、可能な限り対応するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・前担当ケアマネージャーから情報を得るようにしている。センター方式のB3シート(私の暮らし方シート)を活用している。居室担当者が中心となりこれまでの暮らしについて把握に努め、全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察を行い、本人の意向を確認しながらやりたい事をして頂いている。ケース記録、日誌、チェック表等活用し情報共有を図っている。変化がある場合は、こまめにケース記録へ記入を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6か月に1回見直しを行っている。本人・家族へも今の思い、要望・希望を聞き把握している。居室担当者を中心に、看護師の意見も踏まえカンファレンス行っている。心身の状態の変化や、転倒等の事故があった場合など都度見直しを行い、必要に応じプランの変更を行っている。	介護プランは、計画作成担当者に居室担当職員も加わって原案を作成し、職員カンファレンスで検討し決定している。計画の見直しは6か月毎に行っているが、転倒が多くなる等、状態に変化があれば、随時見直しを行っている。モニタリングは日々のプログラムチェックを行い、居室担当職員が集計まとめている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プログラムチェック表を活用し、毎日プランが実践されているかをチェックしている。また、ケース記録や日誌を活用し、職員間で情報の共有を行っている。それらを介護計画の見直しに役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物など本人の希望があれば、好きなものを代行して購入している。家族が対応できない場合は、事業所で購入の対応をしている。本人・家族のニーズに応じた対応を心掛けている。			

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の床屋さんに来所してもらっている。感染症の流行により、例年出かけている地域のお祭りや運動会等の参加は出来ていない。この地域の資源について把握できるよう、研修を行い職員同士で考える機会を設けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取り合い、かかりつけ医へ受診している。受診は基本的に家族対応としているが、必要に応じ送迎を行ったり、付き添い介助を行っている。受診後は、家族から結果などを報告してもらい、情報を共有している。また、事業所で対応した場合は、受診後に必ず結果を連絡・報告している。	多くの利用者が、入居前から町内の県立軽米病院をかかりつけ医とし、入居後も継続受診している。軽米町以外からの入居者は、緊急時の対応を考慮して軽米病院にかかりつけ医を変更してもらっている。多くの家族が面会を兼ねて受診に同行しており、受診後は家族から結果の報告を受け、職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する老健看護師が非常勤で勤務しており、利用者の状態把握に努めている。日誌や口頭で情報を共有し、状態変化ある際は、都度電話連絡し相談を行っている。受診結果についての報告もしている。内服薬について、便秘薬の調整、皮膚トラブルの相談等こまめにし、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、情報共有シートの活用、入院に至るまでの経緯を報告している。入院中も病院関係者と情報交換し、退院時のカンファレンスも行っている。電話にての情報収集も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針を作成しているが、現在までに看取りは行っていない。入居時に重度化や終末期について意向は、都度確認を行うようにしている。隣接する老健や協力病院と連携を図り支援している。	重度化した場合には、協力病院への入院や隣接の老健施設、特養ホーム等への変更となることを入居時に家族や利用者に説明している。看取りを希望する方もあるが、事業所では病院や老人保健施設などと連携を図り、安心して入院や老人保健施設に移ることができるように支援を行っている。看取りはまだ行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を中心に、緊急時対応のフローを整備し、電話口に常備している。緊急連絡網を整備し、緊急時の対応に備えている。喀痰吸引については、吸引機の取り扱いについての手技の研修を行ったり、急変時に慌てず行動出来るよう物品の整備も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。うち1回は、消防立ち合いにて実施。もう1回は、運営推進会議の際に実施し、委員の方々に評価して頂いている。小規模多機能、老健とも連携を図り、取り組んでいる。発電機や非常食を老健と共有している。	町のハザードマップでは浸水や土砂災害の地域指定とはなっていない。年2回は主に火災想定避難訓練を行なっている。夜間想定では小規模多機能ホームの職員1人と隣接の老健施設から2人の応援職員を見込んでおり、近所の住民にも協力をお願いしている。また、老人保健施設が福祉避難所に指定されており、発電機や非常食などを共同で備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、接遇やプライバシーの保護について再確認を行っている。日頃の言葉遣いや口調、表情など十分に気を付け対応できるよう、職員会議時に繰り返し呼びかけもしている。お礼やねぎらいの言葉も忘れないよう心掛けて取り組むようにしている。	職員研修では利用者の尊厳とプライバシーの確保について確認しており、スピーチロックとならないよう言葉遣いに注意するよう促している。排泄に失敗した場合にはドアを開けないようにし、周囲に聞こえないよう羞恥心に配慮して声掛けしたり、入浴時にも着替えなどが見えないようプライバシーを確保している。また、食事の際の手伝いについては、利用者へお礼の言葉をかけて感謝を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認を行いながら、希望や思いを汲み取るように心がけている。本人が選んだり、決められるよう声をかけ支援している。普段から、話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を確認しながら声をかけ、本人のペースにて過ごして頂いている。無理強いせず、時間をずらしたりし、本人の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んでもらったり、季節や気温を考慮し声掛けをしている。定期的に床屋さんに訪問をお願いしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託をしているが、レク活動で季節に応じたお菓子(彼岸団子、かき氷など)や昔ながらの地域に伝わるおやつ(へちよこ団子、みそもちなど)を作る機会を設けている。老健の行事に合わせ、お祝い膳の提供もある。毎日の食事では、おしぼり準備や食器洗い、食器拭きをお手伝い頂いている。	4年前から、ご飯・みそ汁を含め、食事は外部委託している。肉か魚かという好みについては選択できるようにしている。また、毎月、職員が利用者の希望を聞いておやつを作ったり、誕生日にはケーキを用意して楽しむ機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健の栄養士の管理のもと、カロリー・栄養のバランスはとれている。刻みやお粥、ミキサー(ソフト)食の対応は状態に合わせ、臨機応変に対応している。食事・水分チェック表を活用し、摂取量の把握に努めている。摂取量少ない場合は、本人の好みの物や、食べやすい物を購入し、食が進むように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、本人の状態に応じて、声かけ・見守り・介助にて行っている。義歯は洗浄剤につけたり、うがいが出来ない方は、口腔清拭の介助をしている。拒否がある方は、時間をずらし対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が行えるよう、排泄チェック表を活用し、声かけ・誘導を行っている。訴えられない利用者さんに関しては、しぐさや表情を確認し、誘導を行っている。日中、夜間でパットの大きさを変えている方もいる。	利用者ごとの排泄チェック表を活用して、適時に声掛けを行ってトイレでの排泄を誘導しているほか、利用者のしぐさや表情から判断してトイレに誘導することもある。オムツ使用者が2人、自立の方が1人で、他はリハビリパンツの使用となっており、なるべくトイレでの排泄を持続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量などチェック表を活用し、状態の把握行っている。ヨーグルトや牛乳の提供行っている。飲み物も好みの物を選ぶよう、希望を聞きながら対応している。また、事業所内や外の散歩行い、運動の機会を設けている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で曜日を決めているが、希望や拒否がある場合は、柔軟に対応している。状態に合わせ、小規模多機能ホームに設置されている機械浴の対応も行っている。季節を感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯をする事もある。思いを聴く大切な時間である。	週2回の入浴を基本とし、午前や午後の希望する時間帯での入浴としている。同性介助を希望する方もいるが、次第に拘らなくなっている。2人の方は併設の小規模多機能ホームの特殊浴槽を利用している。入浴時は職員と1対1となるため会話の中で本音が出されることもあり、大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に応じて、過ごして頂いている。室内の温度管理や明るさに気を付けている。こまめに本人への確認を行い、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で管理をしている。食事の際、職員2名にて確認し、服薬をしている。薬の内容についてはケース記録へファイリングし確認している。また、薬変更時は日誌や申し送り等で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・食器洗い、ごみ集め、モップ掛け等、毎日のご自分の仕事とされ手伝って下さっている。また、花を植え、水やりや手入れを行って下さる方もいる。カラオケが好きな方もあり、誕生会の際は盛り上げ役として参加して下さる方もおられる。一人一人に合わせた過ごし方が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、外出の機会はほとんどない状況である。日常的には、事業所周辺の散歩へ出かけ気分転換を図っている。町内の花見ドライブや老健での花火大会の見物へ出かける機会を設けた。また、夏祭り気分を味わおうと、委員会が中心となり事業所内での縁日を企画した。スイカ割り、ヨーヨー釣り、千本引きなど、楽しまれ好評であった。事業所内での過ごし方を充実させるよう、取り組んでいる。	コロナ禍のために外出機会は大きく減少しているが、ホームや隣接の老健施設周辺の散歩を楽しむようにしている。また、老健施設が行う夏の花火打ち上げに出かけて楽しんだり、付近にある花木の植栽地に出かけることも楽しみにしている。ミニドライブで町内の花見や紅葉見物に出かけることもあり、できる範囲での外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談し、ホーム預かりや本人持ちとして、個々の希望に合わせて対応している。小遣い帳をつけ、2か月に1度、家族通信の送付と併せて、家族への報告を行っている。また、本人の希望がある場合、お菓子や飲み物などを代行で購入している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族から希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高く開放感がある。写真やレクで作成したものを飾っている。ウッドデッキに出たり、花を飾ったり季節を感じられるようにしている。ホールや各居室にはエアコン、加湿器にて適度な温度や湿度に配慮している。施設内の清掃・消毒・換気はこまめに行っている。	ホール兼食堂は、エアコンと床暖房、加湿器により適切に温度管理され、快適さが保たれている。テーブルには花が飾られ、壁面には利用者が職員と一緒に作成した貼り絵や季節を感じさせる作品などが飾られている。利用者は、輪投げや的当てで遊んだりカラオケを楽しむほか、体操も行うなどして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ(3人掛け×2)や食事や作業テーブルを設置している。それぞれが思い思いの場所で過ごされている。小規模多機能ホームのソファや廊下奥の椅子で休まれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼット、床頭台、ベット、エアコンが備え付けられている。家族の写真や飾り、希望者はテレビ、ラジオ、DVDプレーヤーを持参されている。小物類(置時計など)使用していたものを居室に置き、少しでも居心地の良い場所を作るように支援している。	居室はホールと同様に、エアコンと加湿器により適度に温度管理され、快適に保たれている。クローゼットやベッド、床頭台が備え付けられ、利用者はテレビやDVDプレーヤー等を持ち込み、家族写真や自分の絵の作品を飾って落ち着いて過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方には扉に大きく名前を付けたり、トイレには張り紙をしている。室内は段差もなく、共有スペースには手すりを設置するなどして、安全に配慮している。		